

中二国語科通信

第6号
平成30年12月20日
国語科2年担当
奥池・高崎・狭間



湯から出てほわりと赤くなった子を
タオルにくるめば石鯨香る

中学校生活最大のイベントである修学旅行が、とうとう終わってしまいましたね。さまざまな思い出を胸に、はじめのうちはフワフワしていましたが、期末考査も終え、さすがにすっかりと日常を取り戻しているように思います。戻ってきて初めての授業は、そんなフワフワした状態での五十分間でしたので、皆さんには少し遊びの時間を設けたのです。タイトルは、「修学旅行を漢字一字で表してみよう！」——その漢字をもとに、短歌・俳句・川柳を作ってもらいました。今回はその中から各クラス二作品ずつ紹介します。(氏名は一応「匿名」にしておきますね(笑))

カ

アメリカで
力を合わせて
頑張ろう

力はアメリカの地に着いた時に、必要だと思っただけ。例えば、アメリカでテロなどが起きていた時に、最低でもその場を乗り切る力を備えなければならない。しかし、一人の力ではほんのちっぽけなテロも止められるから分らない。だからみんなの力を一つに合わせてテロから逃れるということ。

忘

バスの中
自分で外した
パスポート
「それはミスか」と

観光地に向かっているとき、パスポートをバスの中ではずしてしまい、そのまま忘れてしまっただけで、先生に「それはミスか」と言われてしまった。先生に「それはミスか」と言われてしまった。先生に「それはミスか」と言われてしまった。

言

店員と
桜について
ももの五分は
余裕で話せた

アメリカに行き、言語の違う人が大勢いて、まさに「人種のるつぼ」という言葉を肌で感じる事ができたから。また、アメリカでは外国人と英語で会話をしたり、写真を撮ったりすることができ、言語の違いにも少しではあるが、慣れることができたから。

跡

初雪の白さの上に
足跡を
残した後に
積もる思い出

今回の修学旅行の思い出を跡として残したいと思っただけです。それと、大野先生が「アメリカに行った足跡を残したい。」とおっしゃっていたのを思い出したからこの漢字にしました。

懐

普段では
頭の隅に
あることも
離れてわかる
その懐かしさ

アメリカに行ってみて、向こうの文化を知れて楽しかったけど、日本の食べ物や日本語、家族が懐かしいと毎日のように思っていたから。日本に戻ってきて修学旅行中の出来事が懐かしいと思えるほど記憶に残っていたから。

濃

めっちゃ濃い
あの生活も
味つけも

七日間とっても濃い生活をしたことができたからです。アメリカの味の濃いように。

他にはこんな字が

ありました！

初世節苦境割伝
夢遊米零温風迷
困食湯般病賭輝
大乱美幸居会景
寒失極潤溢路金
樂家舌違知重臆
彩学瘦魅塩想葉
協優芯表時挑異
驚優芯表時挑異

「宮崎タラレバおばさん」

日高由里子

二年生の皆さん、お久しぶりです。アメリカへの修学旅行を経験した二〇一八年は、時を経るほどに輝きを増すんじゃないかしら。

中学生の頃、「民放2局しかないし、服買う店もないし、誰もライブに来んし！」と宮崎の田舎さ加減にうんざりしていました。当時の宮崎は、ケーブルテレビもイオンも市民文化ホール(これは中学二年ぐらいのときにできた)もない、今以上のド田舎でした。だから、絶対に出て行くんだ！と心に決めていました。行き先は東京ではなくて、なぜか海外。特に南米の古代文明と東南アジアの生活文化に触れてみたいと思っていました。でも、日本のことをよく知りもせず海外に行ってもなあ……と思いつつ、京都や奈良に興味を持つようになり。しかし私は熱しやすく冷めやすい。気がつけば、ごく自然に国語の教員になっていました。結局、宮崎を離れたのは大学の四年間だけ。それもすぐ隣の県。ちよつと笑っちゃいます。

でもね、妥協したわけでも諦めたわけでもなく、あの日々はまさしく「自分探し」だったんだと思います。私は納得して、とうかかかなり幸せに、いまの暮らしの中にいます。

一方で、まだ何も決まっていなかった中学生の時に海外に行く機会を得ていたら、何が違っていたのかもなあ……とほんのちよつぷり思ったりもします。だから皆さんが羨ましい！ DA PUMPの『U.S.A.』が大ヒットした年だから、なおさらです。

来る年が、笑顔いっぱいよいよ年になりますように。